

交野市文化財調査概要 1997-1

平成 9 年度

交野市埋蔵文化財発掘調査概要

1998. 3

交野市教育委員会

例 言

- 1 本書は交野市教育委員会が、平成9年度国庫補助事業として計画・実施した交野市内における埋蔵文化財発掘調査の概要報告である。
- 2 発掘調査は交野市教育委員会が調査主体となって実施した。
- 3 本書で使用したレベル高は海拔絶対高で、方位は磁北方位である。

目 次

例 言

第1章 埋蔵文化財発掘調査の状況	1
第2章 発掘調査報告	1
第1節 交野郡衙跡	1
第2節 神宮寺遺跡	2
第3節 有池（ありけ）遺跡	3
第4節 私部城跡	3
第5節 布懸（のうがけ）遺跡	5
第6節 私部南遺跡	5
第7節 森遺跡	6

挿 図

第1図 調査地位置図	1
第2図 掘削地位置図	1
第3図 掘削地断面図	2
第4図 掘削地位置図	2
第5図 調査地位置図	2
第6図 掘削地位置図	2
第7図 調査地位置図	3
第8図 掘削地位置図	3
第9図 調査地位置図	3
第10図 掘削地位置図	4
第11図 掘削地断面図	4
第12図 調査地位置図	5
第13図 掘削地位置図	5
第14図 調査地位置図	5
第15図 掘削地位置図	5
第16図 調査地位置図	6
第17図 掘削地位置図	6

図 版

- 図版 1 私部城跡出土遺物実測図
- 図版 2 交野郡衙跡97-4 次完掘状況
- 図版 3 私部城跡97-2 次完掘状況
- 図版 4 私部城跡97-2 次調査出土遺物

第1章 埋蔵文化財発掘調査の状況

交野市教育委員会では平成9年8月25日から平成10年2月2日に至る間、交野郡衙跡他7件の補助事業に係る発掘調査を実施した。今年度調査対象となった遺跡は交野郡衙跡、神宮寺遺跡、有池遺跡、私部城跡、布懸遺跡、私部南遺跡、森遺跡の7遺跡である。

第2章 発掘調査報告

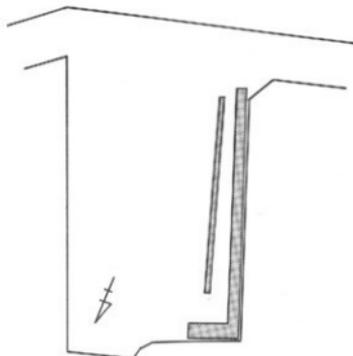
第1節 交野郡衙跡

① 交野郡衙跡97-4次調査 交野市郡津1丁目395-1

調査区の西側に機械掘削にて南北に24.0×1.0m、東西方向に5.0×1.5mの鍵形の第1トレンチを設定し、地表下0.5mまで掘り下げる。調査の結果、埋土中より古代から中世に属する土器・鉄滓が確認されたため、断面実測後、同トレンチとほぼ平行した形で再度20.0×0.5mの第2トレンチを設定し調査を継続した。第2トレンチからも同一時期の遺物は確認できたが、遺構は検出できなかった。層位は基本的の上層より表土（第1層）、黄褐色粘土（第2層）、灰黄褐色粘土混じりの砂質土（第3層）、褐色粘土（第4層）、褐色砂質土（第6層）から形成される。古代から中世に属する遺物包含層は第3、4層で第6層は郡津一帯の台地上の地山とされる粘土層である。遺物は主にトレンチの南端部分から出土した。特に第6層については以前北側から南側に傾斜する地であったところに盛土をした平坦地であり、先に述べたように遺物中には鉄滓も含まれており、以前この付近からは白鳳時代の瓦も出土したことから郡衙の所在地とも推定され、現在の耕作地となる中世以前には周辺に鍛冶工場の存在したことが推定される。



第1図 調査地位位置図 1：5,000



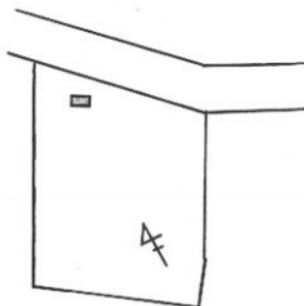
第2図 掘削地位位置図 1：500



第3図 掘削地断面図

② 交野郡街跡97-5次調査 交野市郡津4丁目608-1、608-4の一部

調査区の北側に機械掘削にて2.0×1.0mのトレンチを設定(途中で1.0×1.0mに変更する)し、地表下0.5mまで掘り下げる。調査の結果、盛土層が予想以上に堆積しており旧耕作層までにも到達できず工事による支障がないことを確認して調査を終える。

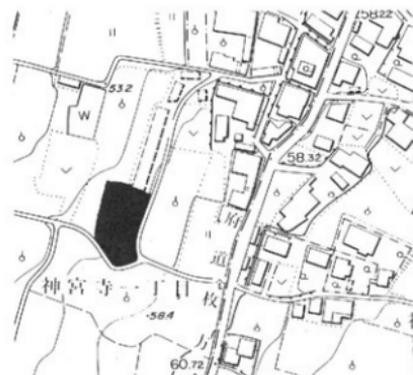


第4図 掘削地位置図 1 : 500

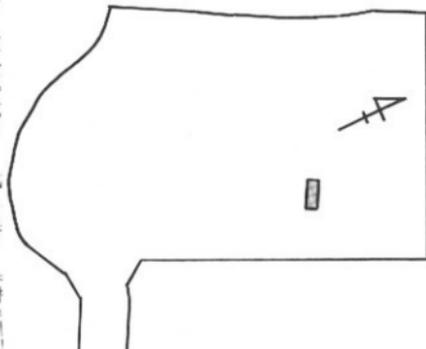
第2節 神宮寺遺跡

① 神宮寺遺跡97-1次調査 交野市神宮寺1丁目319-1他

調査区の東側に3.0×1.0mのトレンチを東西方向に設定し入力掘削にてまず全体に0.4m掘り下げた後、西側部分を地表下1.2mまで掘り下げる。調査の結果、調査地の地形が扇状地内に位



第5図 調査地位置図 1 : 2,500



第6図 掘削地位置図 1 : 500

置していることから、現在ブドウ畑となっている耕作層の下層は花崗岩質の砂層が堆積していた。表土層より土師器および瓦器片を検出したが、それより下層部では遺物および遺構は確認できなかった。

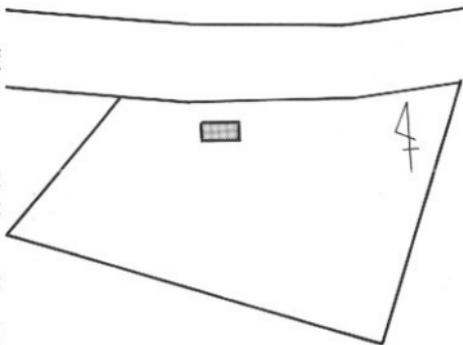
第3節 有池遺跡

①有池遺跡97-1 青山4丁目2254-1の一部

調査区の北側道路沿いに2.0×1.0mの試掘トレンチを設定し、1部地表面下1.0mまで掘り下げる。調査の結果、現在の耕作土層の下層は扇状地特有の花崗岩質の砂層となっており、その下層の地表下0.8mに旧耕作層の跡と（河川跡の可能性も考えられる）推定される黒色の層が堆積していた。遺物、遺構は確認されなかった。



第7図 調査地位置図 1 : 2,500



第8図 掘削地位置図 1 : 250

第4節 私部城跡

①私部城跡97-2次調査 交野市私部5丁目2949、2949-2の一部、2950

今回の調査地である長寿山光通寺は臨済宗東福寺派莊嚴院末寺である。「東福寺誌」によると建立年代は嘉慶年中（1387～1389）となっているが、寺に残る古文書では観応元年（1350）以前の建立と推定されている。

光通寺の所在するところは、私部の旧集落の北側で、西側は天野川流域の平野部に北と南側は天野川に注ぐ河川にて区切られ



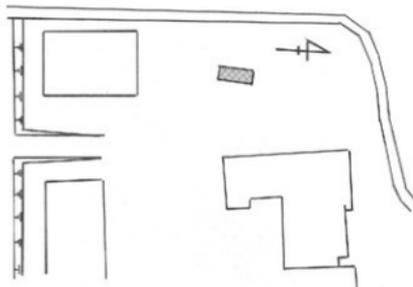
第9図 調査地位置図 1 : 2,500

た舌状台地の付け根付近に位置している。標高は27m程でこの付近では最も高所である。付近には弥生時代中期の遺跡が存在している他、このような防壁に適した立地を利用して、南北朝時代から戦国時代にかけては私部城と称された平城が存在していた。

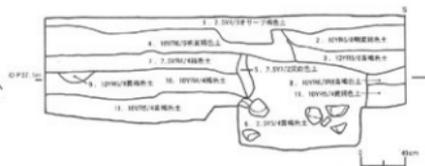
調査は敷地内の南側に3.5×1.5mのトレンチを設定し機械掘削と人力にて地表下1.2mまで掘り下げた。調査の結果、まず層序については図11のとおり基本的に第1・4・6・7・8層の5層から形成される。第1層は現在の表土層である。機械掘削のため詳細は不明であるが、現在建っている寺院の最古の棟札が寛文4年(1664)であることから、江戸時代から現在までの堆積層であると見えよう。

第2層から4層も整地のための盛土層と思われるが出土遺物がないため明確な時期は不明である。下層より出土した遺物から考えて室町時代後期から江戸時代までの層と考えられる。第5、6層からは室町時代後期の瓦が多量に出土した。危険が伴うため完掘はできなかったが、機械掘削により2m以上の深さであることが確認できた。その埋土の形態からこの遺構は井戸跡と推定される。第7層からは弥生時代から奈良時代にかけての遺物が混じって出土した。この第7層から井戸が掘りこまれており、井戸と同時期における整地のための盛土層であることから今後周辺より弥生時代から奈良時代にかけての集落跡が検出する可能性が高く予想される。第8、10層からも弥生時代から奈良時代にかけての遺物が出土した。

出土遺物としては第5、6層の井戸内埋土より、コンテナにして約5箱分の瓦(軒平瓦、軒丸瓦丸、平瓦、道具瓦)が出土した。1、2は同一個所に傷があり、同范使用したと思われる。1は鳥倉瓦で直径約15.0cm、2は軒丸瓦で直径14.5cmを測る。4は軒平瓦の破片で、一部瓦頭面が残っており文様には唐草文を使用していたと思われる。3は鬼瓦で総高46.5cm、残存する最大幅31.8cmを測る。裏面は緩やかに窪んでいる。そのほか5鏝(径約6mm)、6釘(径約7mm)が出土している。瓦群がのっていた建物に使用された鉄器類と思われる。



第10図 掘削地位置図 1 : 500



第11図 掘削地断面図

第5節 布懸遺跡

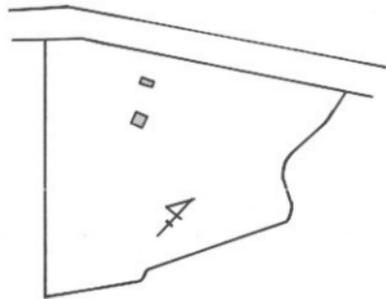
①布懸遺跡布97-1次調査 交野市星田7丁目2649-1他

調査区北端の中央部に2.0×1.0mの第1トレンチとその南側に2.0×2.0mの第2トレンチを設定し、第1トレンチについては地表下0.9mまで掘り下げ、第2トレンチについては地表下0.7mまで掘り下げる。調査の結果、それぞれのトレンチとも地表下0.4~0.6mにて、花崗岩の風化した褐灰色の砂層となる。そして、その上層の現耕作層の床土層にて、地形の傾斜を調整しているのが認められた。

出土遺物が全く検出されなかったことや、層序の堆積状況から推察してこの調査区の耕地化は比較的新しく、近世以前に遡ることはないと考えられる。



第12図 調査地位位置図 1 : 2,500

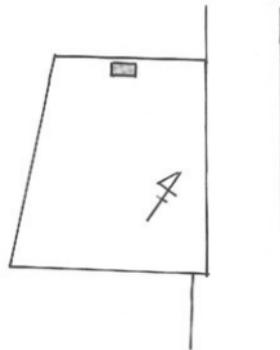


第13図 掘削地位位置図 1 : 800

第6節 私部南遺跡



第14図 調査地位位置図 1 : 2,500



第15図 掘削地位位置図 1 : 400

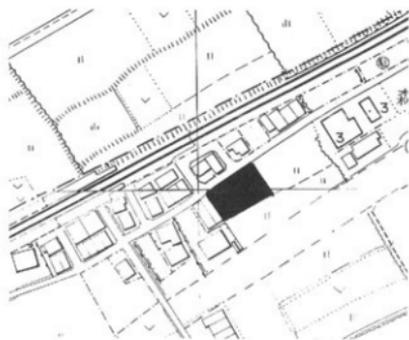
①私部南遺跡97-1次調査 交野市私部南2丁目364-1の一部

調査区に2.0×1.0mのトレンチを設定し、地表下0.5mまで掘り下げる。層位は上層より5 B G6/1青灰色粗砂、10Y R2/2黒褐色シルト、2.5Y8/6黄色礫である。遺構・遺物は確認できなかった。

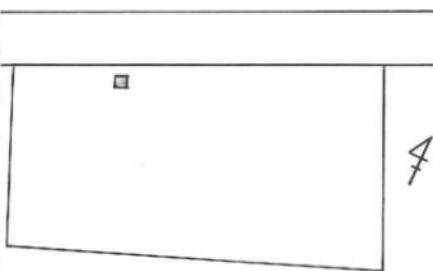
第7節 森遺跡

①森遺跡97-3次調査 交野市森南1丁目298-3の一部

調査区の北側に1.0×1.0mのトレンチを設定し人力掘削にて地表下1.0mまで掘り下げる。調査の結果、8層の堆積層に分層される。盛土（第1層）の下層、地表下0.25mで耕作土（第2層）となり、さらに褐灰色の旧耕作層（第3、4、5層）が地表下0.6mまで堆積する。そして、その下層に中世、古墳時代の包含層である黒褐色土（第6層）、黒色土（第7層）が堆積する。同層内からは瓦器、土師器、須恵器片が出土したが遺構は確認できなかった。

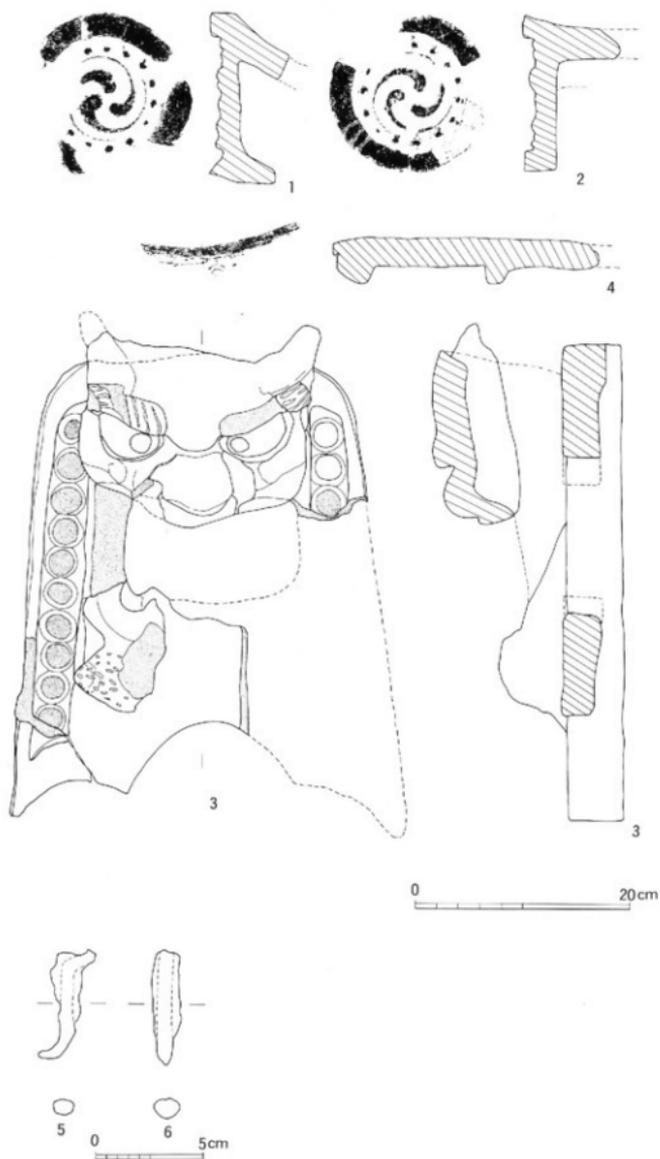


第16図 調査地位置図 1 : 2,500



第17図 掘削地位置図 1 : 400

圖 版



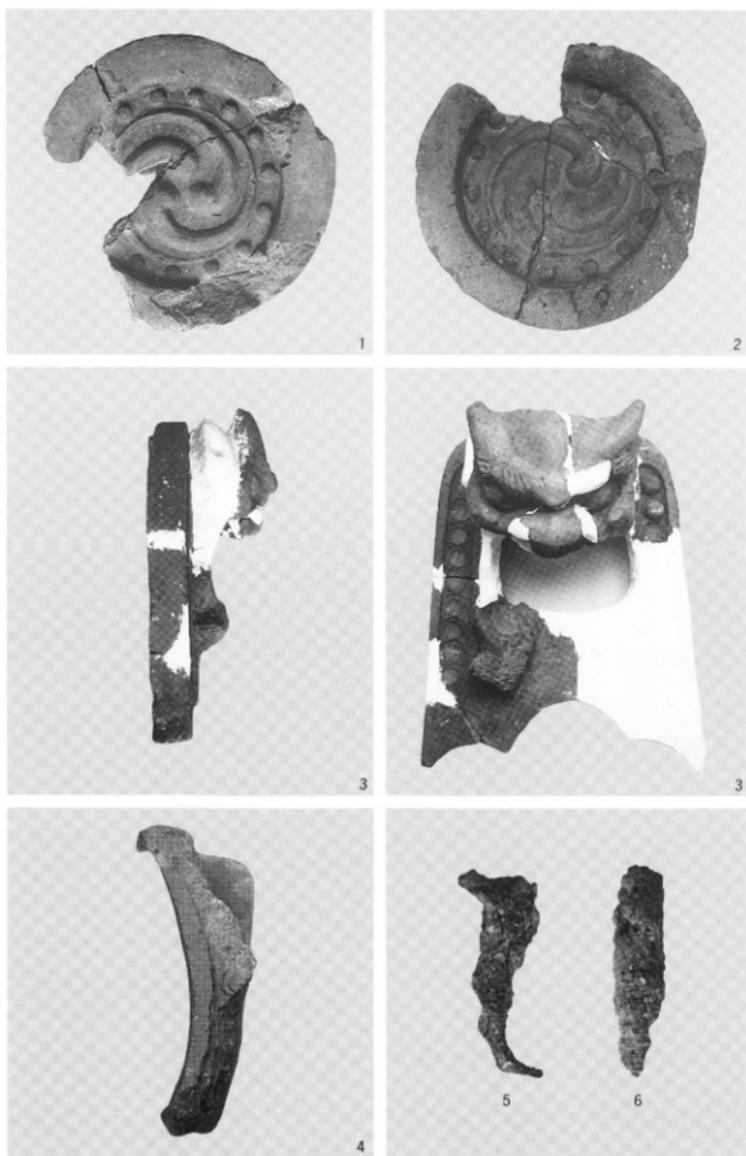
图版1 私部城跡出土遺物実測図



図版 2 交野郡街跡97-4次完掘状況



図版 3 私部城跡97-2次完掘状況



図版4 私部城跡97-2次調査出土遺物

報告書抄録 (1)

ふりがな	へいせいのくねんじゆんたのしほいすうぶんかほいせうくつちようさほいよう							
書名	平成9年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号	交野市文化財調査報告1997-1							
編著者名	奥野 和夫、 真鍋 成史							
編集機関	交野市教育委員会							
所在地	〒576-0052 大阪府交野市私部1丁目1番1号 ☎(0720)92-0121							
発行年月日	西暦 1998年3月							
ふりがな	ふりがな	コ ー ド		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
交野郡衙跡 ①	交野市郡津	27230		34°47'30"	135°40'41"	1997.10.21	737.89	宅地開発
						～23		
②						1997.10.30	432.95	宅地開発
神宮寺遺跡	交野市神宮寺	27230		34°47'13"	135°42'07"	1998. 1.19	951.47	宅地開発
						～20		
有池遺跡	交野市青山	27230		34°47'14"	135°41'51"	1997. 9. 4	99.08	宅地開発
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
交野郡衙跡	散 布 地 落 跡 官 衙 跡	古墳～中世	柱穴・溝		土師器・須恵器			
神宮寺遺跡	散 布 地 集 落 跡	旧石器・縄文 弥生・古墳 中 世			土師器・瓦片			
有池遺跡	集 落 跡	近 世						

報 告 書 抄 録 (2)

ふりがな	へいせいきゅうねんどかたのしほいほうぶんかぎほくつちようまがいよう							
書名	平成9年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号	交野市文化財調査報告1997-1							
編著者名	奥野 和夫、 真鍋 成史							
編集機関	交野市教育委員会							
所在地	〒576-0052 大阪府交野市私部1丁目1番1号 ☎(0720)92-0121							
発行年月日	西暦 1998年3月							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ° °	° ° °		m ²	
私部南遺跡	交野市私部南	27230		34°46'45"	135°41'11"	1997. 8.26	250.75	宅地開発
布懸遺跡	交野市星田	27230		34°45'37"	135°40'05"	1998. 1.27 ~2. 2	1,459.93	宅地開発
私部城跡	交野市私部	27230		34°47'12"	135°41'05"	1997.11. 4 ~7	2,225.79	宅地開発
森遺跡	交野市森南	27230		34°46'30"	135°41'34"	1997. 8.25	350.05	宅地開発
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
私部南遺跡	散布地	弥生						
布懸遺跡	散布地	旧石器						
私部城跡	城館跡	中世・近世	井戸		瓦・土師器			
森遺跡	集落跡	古墳・中世			土師器・須恵器			

平成9年度 交野市埋蔵文化財発掘調査概要

発行日 1998年3月30日

編集・発行 交野市教育委員会
大阪府交野市私部1丁目1番1号

印刷所 株式会社 **ぎょうせい** 関西支社

